

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	平野区
学 校 名	大阪市立加美南部小学校
学校長名	吉岡 千明

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・加美南部小学校では、第6学年 75名

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語A、算数Aについては、ほぼ大阪市平均であるが、国語B、算数Bについてはそれが、大阪市平均を7ポイント下回っている。理科は、大阪市平均を3ポイント下回っている。無解答率は、大阪市平均と比べ、1.5倍～4.5倍程度高くなっている。

国語・算数のA問題が大阪市平均を維持できているのは、少人数による個に応じた学習や反復練習を多く取り入れたスマートステップ学習などが定着してきた成果と考えられる。

国語・算数のB問題、理科の結果が芳しくないのは、学習に意欲的に、また、粘り強く取り組む姿勢が十分身についていないことが考えられる。

また、昨年からの課題である、「自分の考えをきちんと伝える学習」「情報を整理して考える学習」も十分にできたとは言えない。今後、自校の課題としてとらえ指導を進めていきたい。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 漢字の書きについては、5問とも結果が芳しくなかった。日常的によく目にする語については比較的、良く書けるが、抽象的な熟語となるとの定着が悪い。話の内容を読み取ったり、それをもとに自分の考えを持つ力については一定の力はついているが、記述式の解答を要求されると正答率が低くなる。自分の考えを表現する力の弱さや作文に対する苦手意識が要因として考えられる。今後は、少人数学習の場を生かし、自信をもって表現する取組を進める必要がある。

[算数] A問題においては、多くの問題で全国平均を上回っている。これは、少人数学習や反復練習を多く取り入れたスマートステップ学習の成果と考えられる。しかし、B問題においては、正答率はあまり伸びが見られない。本校の研究で取り上げている「主体的・対話的で深い学び」を生かした学習は、まだ十分成果を出せていないと思われる。

児童の中には、意欲的に取り組む態度が育ち、課題に挑戦する姿勢が伺えるようになってきたが、研究テーマをさらに推進し、様々な場面で表現・伝達できる児童を育てたい。

[理科] 多くの設問で大阪市平均を下回っている。A区分のエネルギーにおいて、ほぼ大阪市平均であるのは、複数指導者で指導にあたりきめ細やかに実験等を進めた成果と考えられる。また、正答率以上に気にかかるのは、無解答率の高さである。学習に対して粘り強く取り組む姿勢をさらに育てていきたい。

質問紙調査より

低学年時より、基本的生活習慣の確立や仲間づくりを中心とした集団育成に力を注いできたが、成果が十分にあがっていない現状がある。その結果として、自尊感情がまだ十分育っているとはいえない、自分の価値や行動に自信が持てない児童が多い。そのため消極的な行動をとる場面がみられる。今後は、自分の将来に対し夢や希望をもつことができる学習や取組、また、学習の中で友だちと伝え合うという活動を重視してみたい。

学習面に関しては、家庭での学習時間の少なさが課題である。その日の復習を中心として、家庭学習にあてる時間は、大阪市、全国とくらべてもかなり低いものである。この点に関しては、家庭での学習習慣の大切さを今後とも訴え、自主学習習慣づくりに継続して取り組んでいくことが大切であると考える。

今後の取組(アクションプラン)

- ・漢字を日常生活に多く取り入れて、漢字にふれる機会を増やし、定着度の向上を図る。
- ・辞書や事典で調べる機会を学習の中で増やす。
- ・「書く」活動に苦手意識をもつ児童が多いので、「書く」活動における少人数指導の充実に努める。さらに、習熟度別指導を効果的に活用し、苦手意識の克服を図る。
- ・すべての教科でICT機器の活用を図り、「聞く」「見る」「読む」活動を充実させるとともに、情報のとらえ方や処理の仕方を身につけさせ、児童が主体的に学習する場を増やす。
- ・計算能力（特に高学年で学習する四則計算）の向上のため、ドリルプリント・復習プリントの充実と活用を図る。
- ・今後も、放課後ステップアップ教室など、自主学習習慣づくりにつながる取組をすすめる。

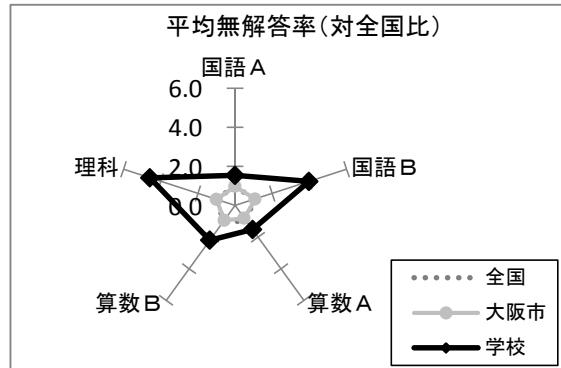
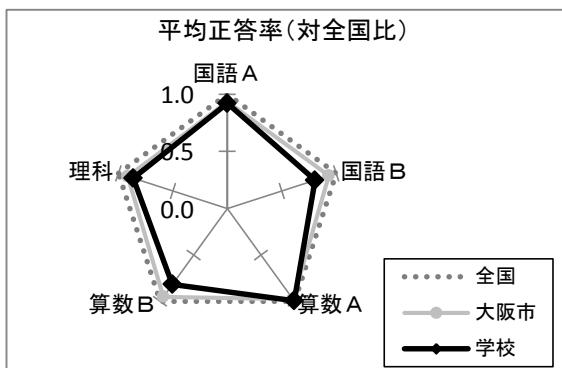
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学校	65	44	63	42	52
大阪市	66	51	62	49	55
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

平均無解答率 (%)

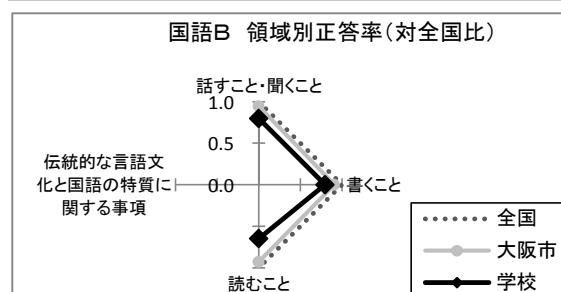
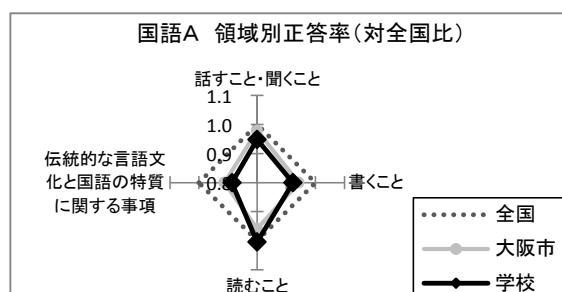
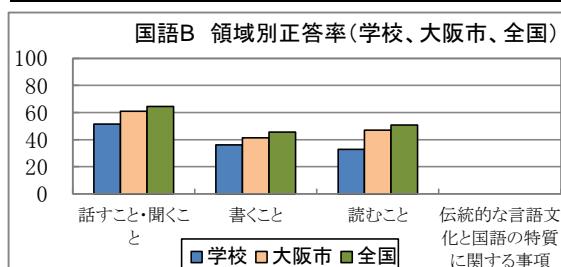
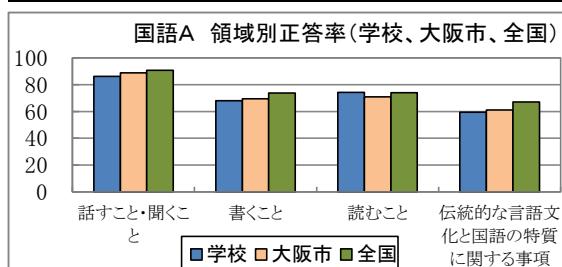
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学校	5.4	15.1	3.8	17.4	5.5
大阪市	3.4	4.1	2.0	7.4	1.2
全国	3.5	3.8	2.5	7.9	1.2



【 国 語 】

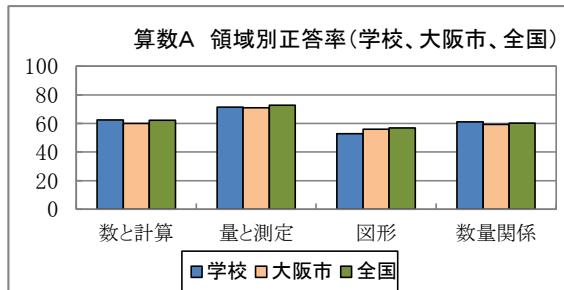
A 問 題	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	86.1	88.9	90.8
	書くこと	1	68.1	69.6	73.8
	読むこと	2	74.3	71.0	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	59.4	61.1	67.0

B 問 題	対象設問数(問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	51.6	60.9	64.6
	書くこと	5	36.2	41.3	45.6
	読むこと	2	32.9	47.1	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	—	—	—

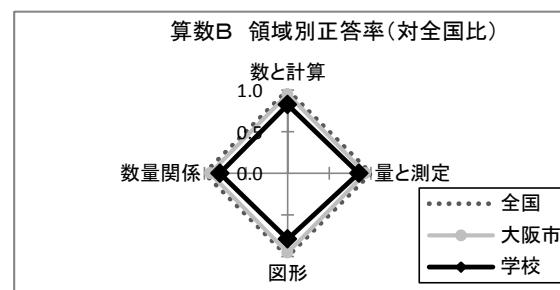
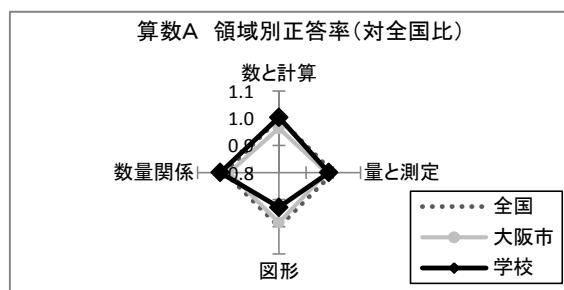
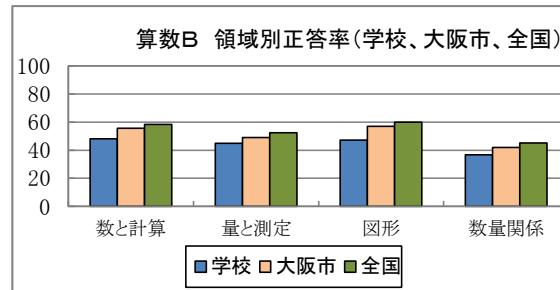


【 算 数 】

A 問 題		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	5	62.5	60.0	62.3
	量と測定	4	71.5	70.9	72.7
	図形	3	52.8	56.0	56.9
	数量関係	5	61.1	59.2	60.1

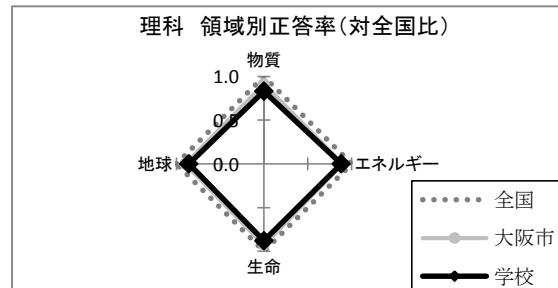
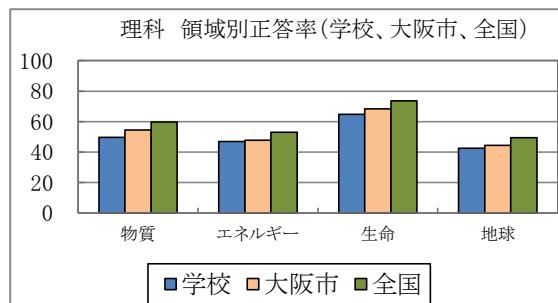


B 問 題		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	6	48.2	55.6	58.4
	量と測定	4	44.9	49.0	52.4
	図形	2	47.3	57.0	59.9
	数量関係	5	36.7	41.9	45.1



【 理 科 】

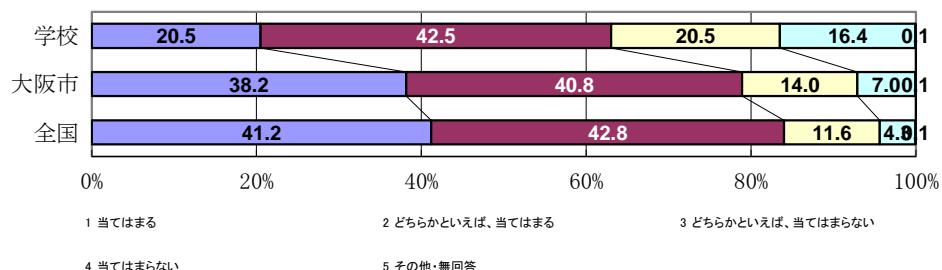
学習指導要領の領域等		対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A区分	物質	4	49.7	54.4	59.8
	エネルギー	4	46.9	47.7	53.1
B区分	生命	4	64.7	68.4	73.6
	地球	6	42.5	44.4	49.5



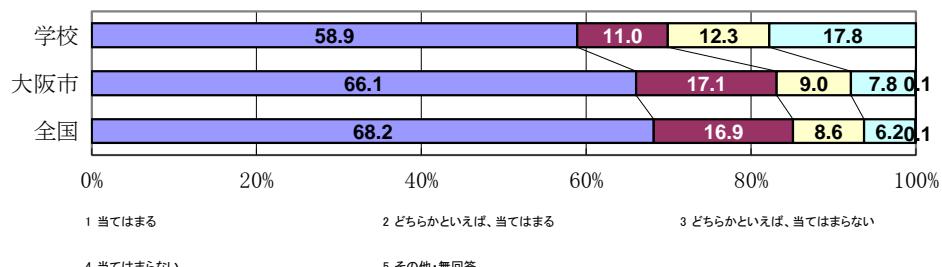
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

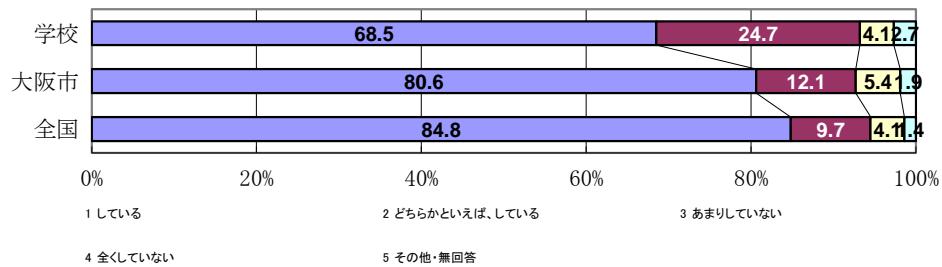
質問番号
質問事項
1
自分には、よいところがあると思いますか



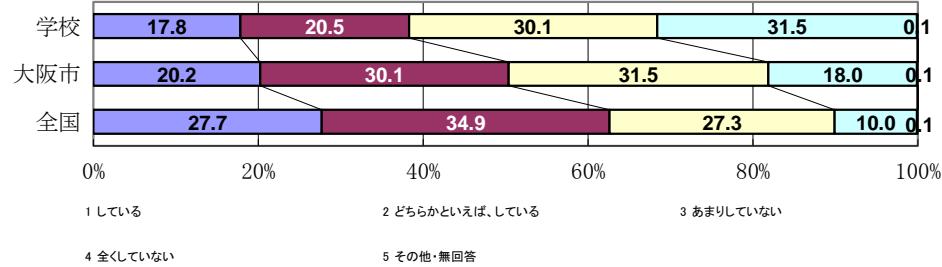
3
将来の夢や目標を持っていますか



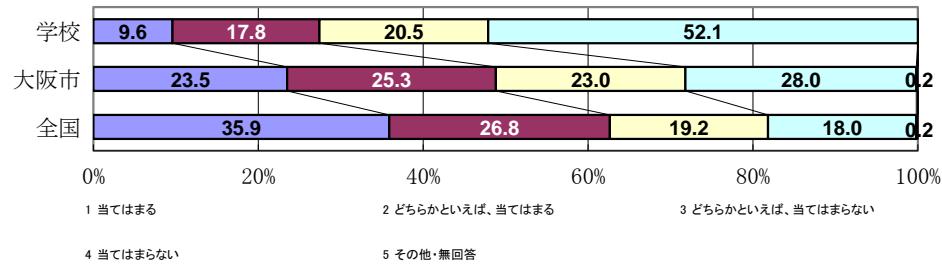
7
朝食を毎日食べていますか



12
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか



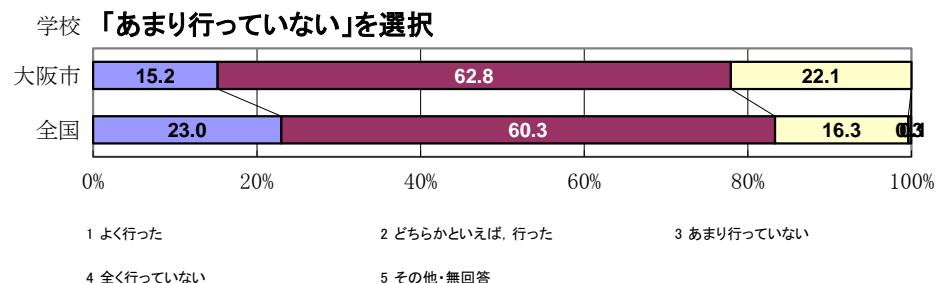
20
今住んでいる地域の行事に参加していますか



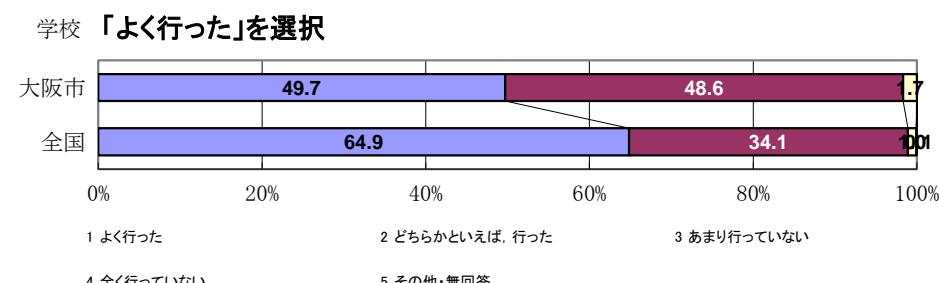
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

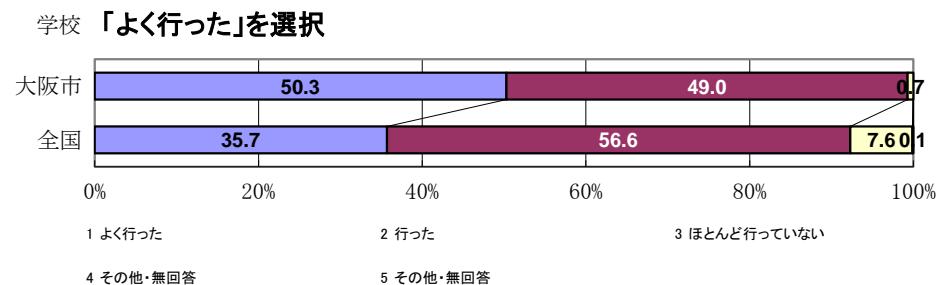
質問番号
質問事項
23
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



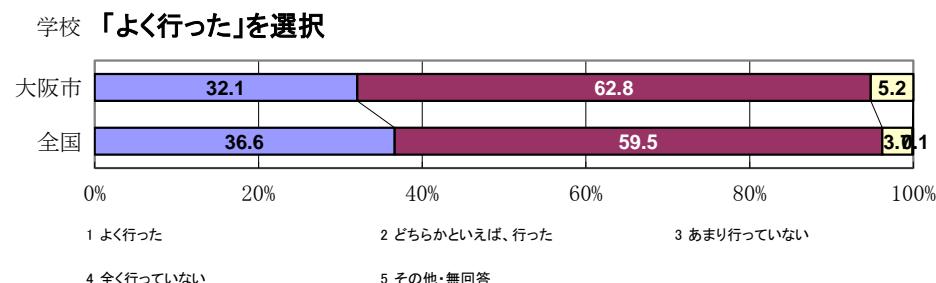
30
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか



32
平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)



42
調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか



60
保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか

